

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和元年 6月 19日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新井 篤志

同 学年部長 岩 羽 純一

【提案日時】

6月 5日 (水)

提案 金井 伸一先生 (鴨志田緑小)

【会 場】

横浜市立 鴨志田緑小学校

司会 藤田 秀悟先生 (田奈小)

記録 中村 勇翔先生 (稲荷台小)

○単元名

「私たちと横浜の水」

○授業者からの自評

- ・子どもたちにとって水を身近に感じることができるように、体験や具体物を使って学校で使っている水の量を意識させ、興味をもたせながら学習問題を立てていった。
- ・前単元 (ゴミ) と同じように子どもたちは学習計画を、水は誰がどうやって送ってきているのか予想し、人に出会うことで解決するかもしれないと考え、見通しをもって学習計画を立てることができた。

○全体協議

- ・学習問題ができるまでの過程
→川井浄水場の急速ろ過システムの仕組みについて教えてもらったが川井浄水場には沈殿池が無い。沈殿池が無くて大丈夫なのか、何できれいなのか、自分たちはすでに飲んでいるから大丈夫などの意見から学習計画が立てられていった。
- ・本時について子どもたちの思考は青山沈殿池なのか川井浄水場なのかどちらに視点を当てていたのか。
→青山沈殿池に視点を当てたかったが、児童の意見にはどちらも混在していたため、青山沈殿池の役割や意味をおさえる必要があった。

○グループ討議

〈視点①〉

- ・子どもが見通しをもって学習計画を立てられている。
- ・単元を見通す学習計画を立てながら学習することによって、本気の学習問題につながった。

〈視点②〉

- ・子どもが追求したくなるような資料提示や板書の構成になっていた。
- 資料が多数提示されていたが、もう少し一つの資料をじっくり考えてもよかった。
- ・比較して分かりやすい資料ではなく、比較してあまり差がない資料でも子どもは考えていた。
- ・難しい言葉や資料について、子どもたちに問い返しを行い、全体の理解が深まるようにしていた。

〈その他〉

- ・青山沈殿池と川井浄水場のどちらかについて話し合う必要がある。
- ・子どもの意見から社会的事象に迫っていてもよかった。
- ・本時は一時間の中で納まる内容だったのか。

○指導講評

〈藤が丘小学校 高畠 聡 先生〉

- ・新学習指導要領に変わっても、問題解決力や事実をもとに思考・判断・表現する力、人を尊重する力は変わらない。

〈文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 小倉 勝登 先生〉

- ・新学習指導要領をもとに、限られた時間の中で子どもが、見方・考え方を自ら働かせて、社会的事象の意味を考えるように授業デザインをしていかなければならない。また、新学習指導要領と教科（資料）の整合性を図る必要がある。
- ・子どもの予想や認識だけでは仕組みが分からないため、教師の手立てが必要である。
- ・問いと予想が学習問題とつながっているのか吟味する必要がある。

文責 岡崎 巨樹 (山下小学校)